

GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 222

2015/03/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. 元町2遺跡から井戸？

02. いきたくなるなる



今月の一枚



「博物館改修作業終了」

表紙写真・文／八重柏誠

美幌博物館は昨年 11 月から約 4 か月間、休館しておりましたが、冷暖房設備などの改修作業がようやく終了し、再び開館することができるようになりました。生まれ変わった博物館は、冬の厳しい寒さでも快適な室温となっています。今回の改修作業では、一部のガラスサッシの交換も行っています。その作業の際には、物見の塔を覆うように足場が組まれました。その様子をパチリ。下から見ても足がすくむほどの高さですね。

Event. 今月のイベント

冬季作品展 ～3月8日(日)

企画展「せせらぎ公園 絵の花散歩道」 3月21日(日)～5月31日(日)

プチ工房「バードコールづくり」 3月12日(木), 19日(木)

モノ作り講座「布ぞうりに挑戦しよう」 3月14日(土), 15日(日)

第7回 自然講座 「美幌周辺の自然情報」 3月22日(日)

Information. 参加者募集

プチ工房 「バードコールづくり」

●3/12(木), 19(木) 10:00 - 12:00, 13:00 - 16:00 自由に入室。作品ができれば終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(200円) ●町田善康(美幌博物館) ●申込み不要

モノ作り講座 「布ぞうりに挑戦しよう」

●3/14(土), 15(日) 9:30 - 12:30 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(600円), お手元が見えにくい方は眼鏡 ●八重柏誠(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(3/1 - 3/13)。対象は小学校4年生から一般。各回定員12名で締切。

第7回 自然講座 「美幌周辺の自然情報」

●3/22(日) 9:30 - 12:30 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●美幌博物館 学芸員, 学芸協力員 ●申込み不要。

今月の休館日

● ●
2日, 9日
16日, 23日
30日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

元町2遺跡から 井戸？

写真・文／八重柏誠



暖房設備改修のため、長期間にわたる休館を余儀なくされた美幌博物館でしたが、2月17日によろやく開館することができました。今回の改修では、深さ200mの井戸から地下水を汲み上げ、年中一定の温度に保たれている地下水の熱を利用するヒートポンプと呼ばれる方法が用いられています。

一般的に井戸と言えば、飲み水を確保するための設備としての印象が強いですね。日本で井戸が見られるようになったのは、おおよそ弥生時代になってからです。井戸の技術は、大陸の農耕文化とともに伝わってきたものと考えられています。井戸が作られるようになる以前は集落から離れた、川や湧水地まで水を汲みに行かなければなりませんでした。それが井戸の登場によりその手間を解消することができるようになりました。北海道で最も古い井

戸は、白老町のアヨロ遺跡で見つかったものです。続縄文時代のごく小規模なもので、井戸の可能性のあるものとされています。

美幌町では、元町2遺跡から井戸によく似た遺構（いこう）が見つかっています。その大きさは、直径約1.5m、深さ3m、上から見ると円形で、底の部分に方形の掘り込みが見られます。この遺構が作られた時期は、はっきりと分かりませんが、約1,000年前に降った火山灰に覆われていたことから、少なくとも擦文時代までさかのぼるものと考えられています。元町2遺跡は擦文時代の集落があった場所です。この井戸のようなものは、その集落に関係したものかもしれません。ただし、遺跡に隣接して北東側に湧き水、西側には網走川が流れていることから、大きな労力をかけて井戸を掘る必要があったのか、疑問も残ります。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

いきたく なるなる

写真・文／町田善康



無事、冷暖房施設の改修工事が
終わり、これからもたくさん
の方に来て頂けるよう、PRを兼ねた
ポスターを発行しました。ポスターの
デザインは、博物館の外観と、シマリ
スがメインの2種類です。個人的に
は、シマリスのポスターが好きで、久
山さんが考えてくれた「行きたくなる
なる」のキャッチコピーが気に入って
います。

さて、ポスターに登場したシマリス。
私たちが普段目にするエゾリスよりも
小さい、リスの仲間です。日本では北
海道にのみ自然分布しています。雑食
性で、主にドングリなどの木の実を食
べ、写真のように、木の実をほお袋の
中に入れて運ぶ様子は、かわいさ満点
です。

冬になると、地中に掘った巣穴の
中で冬眠します。巣穴には、秋に集め
た木の実がいっぱい敷き詰められ、と

きどき起きては、それを食べます。

こんなにシマリスの話をしてしま
したが、実は、美幌町内ではほとんど
その姿を見ることができません。

地域の方にお話を聞くと、昔は町内
にもたくさんのシマリスがおり、美幌
小学校の校庭でも見られたようです。
それほどたくさんのシマリスがいたに
も関わらず、なぜこれほどまでに数を
減らしてしまったのか気がかりです。

美幌町近隣では、津別峠や藻琴山、
屈斜路湖周辺でシマリスの姿を見るこ
とができます。人里では見る機会が
減っても、豊かな森が残る場所や、山
地にはまだたくさんのシマリスがいる
かもしれません。そう考えると、美幌
峠や古梅周辺などは、生息の可能性が
あるのかも。

雪が解けたら、見に行きたくなる
なる！！です。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



.....

坊主にしました。普段、自分の頭は見えないので、
気にならないのですが、人に会うたびに驚かれます。
そして必ず、「どんな悪いことをしたの？」
と聞かれます。決して、悪いことをしたわけでは
ありませんが、2週間に一度、髪を切るたび、清
い心になった気がするのは坊主頭の特権かもしれ
ません。(町田)